

1 一般論の言い方

あなたが英米人と英語で話をするときに何が話題になるのであろうか？

仕事で交渉をするときには、当然のことながら、あなたが携わっている業務の分野が話題になるであろう。しかし、昼間でも、仕事の合間のコーヒープレイクのときや、夕方以降なら接待やら飲み会やらのときには、もっと広く社会一般の話になるであろう。比較文化の話になるかもしれない。

そういうときには「～って……だよな」という「一般論」が多くなる。

「和食って栄養のバランスがいいよね」とか、「30歳以上の未婚の女性はやっぱ負け犬かな」とか、「上司ってどうして、どれもこれもみんな無能なんだろう」とか。

「一般論」とは簡単に言ってしまうと、大ざっぱな物言いのことである。細かい個々の違いを無視して、全体的な色合いを把握する認識である。「バナナというのは甘いものです」というのは、100本あるバナナのうち95本くらいは甘いと言っているのである。例外の5本は捨象しているのである。

▶ 一般論表現の規則や形式

そういう「一般論」を英語で表現するとき、守るべき規則や文形式の特徴が何かあるのであろうか？

「バナナは甘い」を例に考えてみよう。

主語の「バナナ」は日本語では1通りの「バナナ」であるが、英語では、4通りの形がある。

- (1) a banana
- (2) bananas
- (3) the banana
- (4) the bananas

(1) は **one of the bananas** の意味で、「バナナのある集合の中の、ある一本」を表す。——「とあるバナナ」

(2) は「一般的に言ってバナナというもの」の意味である。——「バナナというもの」

(3) は聞き手の人にもすでに了解済みの、ほかと区別される「特定のバナナ一本」を表す。——「あなたもご存知の、そのバナナ」

(4) はあるバナナの集合の全体、つまり「全部のバナナ」を指す。——「そのバナナ全部」

この区別がついていないと、英語をしゃべろうとしても、まず主語の名詞を選定するところで、もうつまずいてしまう。

「バナナは甘い」の問題に戻ろう。

- (1) —————
- 「バナナは甘い」と英語で言うとき、どう言ったらよいのだろうか？ 次の(1)(2)のどっちが正解なのだろうか？
- (1) Bananas are sweet.
 - (2) The bananas are sweet.

(1) は一般論であり、ここでの正解である。一方、(2) は「ありとあらゆるバナナはすべて甘い」という意味になってしまう。